

豪雨対応で再び能登半島へ



2024年1月に発生した能登半島地震の対応で1月以降から今日まで少しずつ人数を減らしながらも当社社員の派遣を続けていました。

少し落ち着きを見せておりましたが、2024年9月21日から23日にかけて石川県能登半島で発生した豪雨災害を受け、当社は再び多数の人員及び車両を能登半島に派遣しています。

1月の地震以降、地盤が緩んでいた影響を受け、今回の豪雨では各所で崖崩れが起き、燃料を積んだ車両が通行できない箇所が多数発生しています。

Last One Mile を必ずお届けすることを使命としている当社では、山上の給油ポイントまで背負子に燃料を積んで給油に行く等、あらゆる手段を用いてお客様に確実に燃料を届ける手段を講じています。

刻々と変わる現地の状況に合わせ、今後もお客様のご要望にお応えできるよう、全力で取り組んでまいります。



新たな車両や装備品が活躍



1月の震災対応以降、現地での経験を踏まえ、当社では新しい車両や装備を多数導入しています。多様化する災害被害状況や、お客様のご要望に対応できるよう今後も必要となる装備を整えてまいります。

専門家に聞く

- 地震後の豪雨、まさに、踏んだり蹴ったりとはこのことか、と思います。そして、踏まれた所を蹴られると痛みが倍増するように、地表面に亀裂が入るなど地震の影響を受けている地盤に雨が降ると、水が地盤内に浸透しやすく、災害が発生しやすくなります。今回、能登半島でがけ崩れが数多く発生しているのもその影響が大きいと考えられます。そして、このような連鎖的な影響を防止・抑制するためには、災害発生時に適切な対応をとることが重要です。例えば、亀裂の入っている斜面にブルーシートを敷くなどです。今回の能登半島地震では、被災地へのアクセスが悪く、人手不足で対応が難しかった面があります。また、一般には、ブルーシートなどの資材が不足しがちです。災害対応の人材供給に加えて、必要な資材の備蓄や搬送の体制が重要なことが、今回の事例からもわかります。(関西大学社会安全学部 教授 一井 康二)



「総合防災・減災企業」として命をつなぐサービスを増進する



日本BCP株式会社

【東京本社】〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町 48 番地 ism 神田 2 階

TEL:03-5289-0223/FAX:03-5289-0235

【大阪本部】〒599-8235 大阪府堺市中区深井東町 3099 番地

TEL:072-230-5888/FAX:072-230-5887

当通信の文章・画像・図表等の無断転載・複製を禁止します

お問い合わせはこちら

